

## 今日のみことば

### □ 7月9日(日) 黙示録 19章

バビロンはついに滅ぼされ、天において勝利の讚美が歌われ小羊の婚宴が始まる。最後の敵であるサタンが永遠の滅びに定められ、すべての者が神の御座で審判を受けるときがくる。

### □ 7月10日(月) 黙示録 20章

千年王国は聖書の中でここだけに記されている。主の来臨に対する祝福に満ちた希望と、絶えざる期待を持って生きることと千年王国について述べられる学説とは別のものである。

### □ 7月11日(火) 黙示録 21章

キリストの花嫁である教会は、新しい天と新しい地における聖なる都、新しいエルサレムとして描かれる。贖われた者たちの永遠の家「住まいがたくさんある父の家」についてである。

### □ 7月12日(水) 黙示録 22章

天国は神が統治され、その御座からいのちの水の川が流れ出ている。神はいのちの源である。神の黙示である聖書が、二度繰り返す約束、主の再臨の約束をもって終わる

### □ 7月13日(木) 創世記 1章

「初めに、神が天と地を創造した。なんと神の啓示にふさわしい断定でしょうか。神が存在している一切のものを創造されたという事実は、私たちは神の手の中にあると言うことです。

### □ 7月14日(金) 創世記 2章

人間が造られたことについて。神がご自分のかたちに似せて造られたということは、神が人、「いのちの息」を吹き入れられたということです。

### □ 7月15日(土) 創世記 3章

これは人類の墮罪の記事です。神によって最善に創造された人間が、なぜ神の救済による以外生きる道のない者となったか。基本的な事実が語られている。

---

ろ ば No. 1823

2017年 7月 9日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ルカ23:34

〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。

「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」と言われました。イエスが発せられた言葉を聞き、私は何のためにイエスが十字架にかかれたかを、こうして私が今あることをかを、理解させていただくではありませんか。

ペトロがイエスに「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」と言うとイエスは「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」(マタイ18:16)と言われました。実に無理難題と言われるイエスだと思わされるでしょう。けれども主イエスは

イエスが語られた言葉のひとつ一つが、私たちの人生の方向を導いてきました。「聖書の中のいちばん大切な箇所」(十戒・主の祈り・使徒信条)を通して私たちは歩むべき道を示されてきました。神さまの言葉にいかに応えて生きるか、「主の祈り」は私たちの応答です。そこでイエスは「わたしたちの負い目を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／赦しましたように」(マタイ6:11)と祈れと教えられました。何を私たちはそこに聞くのですかこれがクリスチャン生活の一步だと私は聞かせていただくのです。イエスが十字架上で、どれほどの苦悩と苦痛を味わっておいでになったか。その苦痛の中でイエスはご自分からはぎ取った衣をくじ引きしている兵士たちを見て「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」と言われました。イエスが発せられた言葉を聞き、私は何のためにイエスが十字架にかかれたかを、こうして私が今あることをかを、理解させていただくではありませんか。

そのように生きておいでになりました。私は、ほんとうにみ言葉に従い得ずに苦悩するのみです。ひたすら主に憐れみを求めて祈らせていただくだけです。

これが、イエスが最初に私たちにお求めになった行動だと理解させていただく時、私は、イエスが様々な言葉で教えて下さった弟子たるの道について、お求めは一つだと言うことに気づかせられました。イエスは「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」(ヨハ3:34-35)と言われました。

私たちは徹底してみ言葉に生きるのです。私はイエスの大宣教命令が至上命令だと信じて生きる者ですが。そのためのエネルギーをしっかりと蓄えておかなければ、この働きは不可能です。それはイエスの十字架に倣うことです。「イエスはわたしたちのために、いのちを捨てて下さった。それによって、私たちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである」(一ヨハ3:16)との言葉に生きることです。私たちが十字架上のイエスの言葉に、しっかりと聞くことが出来なければ、私たちはキリストの弟子ではありません。「父よ、お赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」とイエスは言われます。重要なのはイエスの死ではなく、その意味と解釈の知識です。そこでこの祈りは私たちの祈りとなるのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

イザヤ 6:1-13 鏡に見ると

イザヤが預言者として召されたときのイスラエルは、非常事態でした。王は死んだばかりで、国民は道徳的に邪悪の悲惨の中にありました。神はそこへ使いの者として、国民にその御旨を伝える人を必要としておられました。主はイザヤに目をとめその準備をさせられました。神の偉大さ、神秘、力を感じるとき、イザヤは神の前で自分の罪深さを認識させられました。

神の働きをなし得る者は、神が遣わされる者だけである。神が使わされる者は、清められた者でなければなりません。清められた者は、罪を告白した者。罪を告白することは、神の見た者でなければなりません。神を見ることは、神がご自身を示されるときだけです。

イザヤは神のご臨在ふれ、恐れおののいて、自分の罪の深いことを感じました。その時にこそ私たちは、私たちは神のために働く力を与えられるのです



Read God's Word.